

西宮市レクリエーション活動協会の歩みと地域貢献への課題

○田島 栄文（甲子園短期大学）

日本のレクリエーション運動の中心的役割を担った日本レクリエーション協会が創立して今年で60年となる。敗戦後、日本社会の新しい歩みと軌を一にして進んできた日本のレクリエーション運動は、常に社会の動きに対応しながらレクリエーションが人間生活に不可欠の要素であることを主張し続け、国民の余暇生活の充実と開発、及びレクリエーション運動の普及発展に資することを目的としてきた。

このような日本レクリエーション協会の草の根運動を支えているのは、都道府県及び市区町村における地域レクリエーション協会である。1993(平成5)年に日本レクリエーション協会が「特定公益増進法人」に認定されるに伴い、「都道府県内におけるレクリエーション活動の統括組織」という性格付けが明確にされ、日本レクリエーション協会と連携を図りつつ、地域における運動を展開している。また市区町村レク協会は、各都道府県レク協会の加盟団体又は団体会員という形態で各地域での運動推進を担っているとされる。

本報告では、都道府県レク協会の1つである「(特定非営利活動法人)兵庫県レクリエーション協会」の加盟団体である「西宮市レクリエーション活動協会」に注目し、1987(昭和62)年発足以来、今年で21年目を数えるその活動の歩みをまとめる。そして今後NPO団体として「地域に根ざした社会貢献活動」の活性化へ向けての課題について検討した。

民間野外教育活動団体における長期キャンプの実践

山下雅彦（福山平成大学）

キーワード：小学生，長期キャンプ，事例報告

文部科学省では、平成19年より学習指導要領の改訂に向け審議を重ね、中央審議会は、平成20年1月この答申において、教育内容に関する主な改善事項に、「体験活動の充実」があげられ、集団宿泊的行事などを一定期間（例えば1週間程度）にわたって行うことにより高い教育効果が期待されるなど、これまでにない踏み込んだ提言がされた。その体験活動の柱を担うものが、林間学校や臨海学校などが挙げられる。しかしながらその実施には様々な困難や責任を伴うことから躊躇する学校が多いのが実情である。

しかしながら、近年の自然体験活動の高まりから注目されているのが民間団体である。自営事業のプログラム運営や教育委員会などの依頼による教室開催などその果たす役割が大きくなっている。

そこで本研究では、長い歴史をもつ民間野外教育活動団体の長期キャンプの事例を取り上げ実践報告することを目的とした。